

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 目 次

#### (1) 新設組織の概要 p.2

- ①新設組織の概要
- ②新設組織の特色

#### (2) 人材需要の社会的な動向等 p.2~3

- ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析
- ②中長期的な 18 歳人口等入学対象の全国的、地域的動向の分析
- ③新設組織の主な学生募集地域
- ④既設組織の定員充足の状況

#### (3) 学生確保の見通し p.4

- ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果
  - ア 既設組織における取組とその目標
  - イ 新設組織における取組とその目標
  - ウ 当該取組の実績の分析結果に基づき、新設組織での入学者の見込み数
- ②競合校の状況分析 p.4~5
  - ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性
  - イ 競合校の入学志願動向等
  - ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等
  - エ 学生納付金等の金額設定の理由
- ③先行事例分析 p.5
- ④学生確保に関するアンケート調査 p.5~6
- ⑤人材需要に関するアンケート調査等 p.6~7

#### (4) 新設組織の定員設定の理由 p.7

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### (1) 新設組織の概要

#### ①新設組織の概要

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
藍野大学短期大学部 看護学科 2年課程 看護学科 3年課程	130 60	260 180	大阪府大阪市阿倍野区文の 里 3丁目 15番 7号

この度設置する学科は、看護師を養成する看護学科であるが、「基本計画書」等にも記載している通り、藍野大学短期大学部（以下、「本学」という。）では、平成 16（2004）年度以降、第一看護学科を開設し 2 年制の看護師養成学科（入学定員 100 名）を、平成 19（2007）年度以降、第二看護学科を開設し 3 年制の看護師養成学科（入学定員 80 名）を運営してきた。令和 7（2025）年度より、大阪市阿倍野区に校地・校舎を移転、両学科を統合することを受けて、2 学科編成から看護学科 1 学科 2 専攻課程（2 年課程、3 年課程）に改組するものである。その際、2 年課程（既設の第一看護学科）の入学定員を 100 名から 130 名に、3 年課程（既設の第二看護学科）の入学定員を 80 名から 60 名に変更する。（短期大学全体の収容定員に変更はなし）

新設組織は、教育目標、学位、3つのポリシー、教育課程を既設組織から引き継ぐものである。

#### ②新設組織の特色

新設組織で養成するのは看護師で、別途、看護師学校養成所指定規則により看護師学校の指定を受け、卒業時に看護師国家試験受験資格を付与する。上述の通り、本学では平成 16 年度から 2 年課程の第一看護学科を、平成 19 年度より 3 年課程の第二看護学科を別校地で運営してきており、令和 7 年度より大阪市阿倍野区に移転・統合することを受け、学科の名称を変更し、同時に入学者の確保に適した入学定員数にする。大阪市阿倍野区の校舎に隣接し、同一法人設置校の明浄学院高等学校があり、同校には、高校 3 年間で准看護師資格を取得する「衛生看護科」(定員 100 名)と普通科で看護医療系の進学を希望する生徒のための「看護メディカルコース」(定員 40 名)が設置されており、「衛生看護科」は従来から本学の第一看護学科にほぼ全員が進学してきており、事実上の 5 年一貫教育体制となっている。また、普通科の「看護メディカルコース」は令和 7 年度に初の卒業生が出るが、現時点で在籍生徒の半数程度が新設組織の看護学科 3 年課程に進学を希望しており、今後 6 年一貫教育体制を築いていくのが新設組織の特色である。

### (2) 人材需要の社会的な動向等

### ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

看護師の需要に関する地域的、社会的ニーズ、動向については行政機関の地域医療計画や民間の求人動向などさまざまな指標やデータが存在するが、いずれの指標、データからも看護師の需要は高い。たとえば、厚生労働省による看護師等確保基本指針検討部会（令和5年7月実施）の資料【資料1】によれば、訪問看護を含む介護分野での需要の増大により2040年に向けて看護職員の需要が増大するとの推計が示されている。また同じ資料の都道府県別の看護職員の需給推計によれば、2025年において関東や関西の都市部、大阪府、奈良県、京都府などは看護職員が不足する県として挙げられている。看護学生確保に向けた厚生労働省、各自治体の発信も引き続きされており、看護師需要については中・長期的にみて高いものと把握している。

### ②中長期的な18歳人口等入学対象の全国的、地域的動向の分析

全国的及び地域的な18歳人口動向について、文部科学省学校基本調査の予測値によると、新設組織が開設する2025年度から2034年度にかけて、全国的には85,000人余り、率にして約7.8%、18歳人口が減少するとしている。本学が所在する大阪府では、この間6,100人余り、率にして8.2%減少するとしている。既述の通り、今回届け出る学科は既設の学科とほぼ同様のものを移設するもので、移転先は大阪市阿倍野区という交通至便の地である。18歳人口の減少が続く中で、大阪府の広域から通学でき、隣接する奈良県や和歌山県からも通学圏となっており、人口の減少をかなりの部分補える条件を備えている。

### ③新設組織の主な学生募集地域

新設組織の2年課程は既述の通り、隣接する明浄学院高等学校からの連絡進学先となっており、その他准看護師養成学校のある中国地方、九州地方の高等学校が学生募集の対象となっており、特殊なものである。3年課程は、高等学校の普通科が対象となるが、既設の第二看護学科が大阪府富田林市に校舎があり、大阪南部地域、和歌山県北部など限定された地域が学生募集対象となっていた。令和7年度より大阪市阿倍野区に移転すると、交通の利便性により、学生募集地域が格段に大きくなる。公共交通機関の経路は、大阪メトロ谷町線、大阪メトロ御堂筋線、JR阪和線、近鉄南大阪線の4路線から可能で、大阪北部～南部、兵庫県東部、和歌山県、奈良県中西部などから通学が可能となり、南海高野線のみが通学経路であった既設の第二看護学科とは比較を絶する。新設組織は、令和7年度から大阪市阿倍野区に移転するため、想定できる学生募集地域は上記の通り広大なものであるが、実際の募集活動は開始した段階のため、募集地域の確証となるようなデータは示せない。

### ④既設組織の定員充足の状況

冒頭に述べた通り、新設組織は既設の組織を、人材養成、授与する学位など同じ組織形態を改組（2学科から1学科2専）するものであるため、既設組織（第一看護学科及び第二看護学科）の定員充足状況がそのまま新設組織の定員充足を予想するうえで参考となる。過去5年間

の既設組織の状況は以下の通りである。

表中、第一看護学科（2年制）は新設組織の看護学科2年課程であり、第二看護学科（3年制）は新設組織の看護学科3年課程である。

表① 既設学科の定員充足状況

	第一看護学科（2年制）		第二看護学科（3年制）	
	入学者数	入学定員充足率	入学者数	入学定員充足率
2020年度	92	0.92	96	1.20
2021年度	140	1.40	100	1.25
2022年度	124	1.24	93	1.16
2023年度	118	1.18	77	0.96
2024年度	125	1.25	49	0.61
平均	119.8	1.20	83.0	1.04

### （3）学生確保の見通し

#### ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

##### ア 既設組織における取組とその目標

新設組織は既設組織を、収容定員数だけを変更し改組するものであるため、学生確保のための取り組みは従来行ってきた取組を継続し実施する。オープンキャンパスの開催をはじめ学生募集に関する各種印刷物、進学情報媒体の利用、各種ガイダンスへの参加、SNSでの配信などである。高校訪問については、従来の既設組織における実績高校に加え、既述の通り、令和7年度からは通学エリアが大幅に拡大することから、大阪市内、兵庫県、奈良県などこれまで入学者数が少数であった高等学校に対しても積極的に訪問することで効果が上がると考えている。

##### イ 新設組織における取組とその目標

上記アの通り、既設組織はそのまま新設組織に移行するため、従来の取り組みを継続、強化していく。

##### ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

新設組織は既設組織に比べ通学の利便性が格段に高まるため、従来の学生募集の取り組みを継続、強化することにより、とくに普通科が学生募集の対象となる新設組織の3年課程の入学者の定員充足は十分可能と考えている。

#### ②競合校の状況分析

##### ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学と同様の、短期大学で看護系学科を運営している学校は、近畿地方には存在しないため、広く看護系の4年制大学、専修学校との比較を行う。

大阪府内に、2023年時点で、看護師を養成する学科を持つ4年制大学は18校、専修学校専門課程は3年制が34校、2年制が3校ある。本学が4年制大学の2020年度から2022年度にかけての入学定員充足率を大学の公表値で調べたところ、平均で98%を超えている。専修学校専門課程の養成校については公表数が限られているため、正確な状況は把握できない。全国的に見ると、日本私立学校振興・共済事業団のまとめた令和5(2023)年度私立大学・短期大学等入学志願動向によれば、看護学部の入学定員充足率は、令和4(2022)年度が107学部で101.76%、令和5(2023)年度が110学部で99.22%となっており、定員が充足されている状況がうかがえる。また、同事業団による短期大学の看護学科の集計では、令和4(2022)年度が10学科で99.18%、令和5(2023)年度が11学科で90.79%となっている。【資料2】

## イ 競合校の入学志願動向等

上記アで触れたとおりである。

## ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

近隣の競合校(看護系4年制大学)においては、定員充足ができています。

## エ 学生納付金等の金額設定の理由

既設組織の改組のため、学生納付金も既設組織を踏襲する。ただし、新設組織の2年課程の授業料のみ物価高騰のため若干(5万円)値上げする。

## ③先行事例分析

該当なし。

## ④学生確保に関するアンケート調査

既述の通り、新設組織の看護学科は、既設組織の第一看護学科と第二看護学科の入学定員のみを変更し、1学科2専攻課程に改組するもので、人材養成像、学位、教育課程等の変更はない。したがって、既設学科の学生募集の結果とその背景となる数字が最も信頼できる学生確保の資料と思われるため、間接的なアンケート調査などは行っていない。

現在それぞれ異なっている既設の2学科の校地・校舎を統合するものであるが、これは本届出の看護学科の学生確保においてたいへん有利な条件となるもので、順を追って説明する。

まず、既設の第一看護学科(入学定員100名)、および第二看護学科(入学定員80名)過去5年の入学者および入学定員充足率は④既設組織の定員充足の状況で掲げた表①に記載の通り、入学定員を充足している。2年制の看護学科は高等学校で准看護師資格を取得した者を出願資格としており、同一法人設置の明浄学院高等学校の「衛生看護科」からの連絡進学となっており、高等学校と合わせ5年で正看護師資格を取得する5年一貫教育を実施している。表①にあるとおり、既設学科の100名の入学定員よりも多い「衛生看護科」の卒業生を受け入れている

年度が多く、2025年度以降は、さらに多くの「衛生看護科」の卒業生を受け入れる見込みと  
なっている。因みに、2024年4月1日時点の明浄学院高等学校に在籍する「衛生看護科」及  
 び次に触れる普通科「看護メディカルコース」の生徒数を以下に示す。

	1年在籍	2年在籍	3年在籍
衛生看護科（定員 100 名）	159	112	136
普通科 看護メディカルコ ース(定員 40 名)	80	45	50

②新設組織の特色で触れた通り、新設組織の看護学科2年課程は、上表衛生看護科の卒業生  
 が連絡進学することとなる。（若干名が他の専門学校等に進学する。）新設組織に改組するにあ  
 たり従来の100名から130名に入学定員数を増員したのは、上表の通り衛生看護科からの連絡  
 進学者数が今後安定的に130名に達する見込みであるからである。またこれ以外にも、准看護  
 士養成学校（高等学校と医師会系の専修学校）からも例年10名以上が入学している。

次に既設組織の第二看護学科から変更する看護学科3年課程であるが、こちらの出願資格は  
 主に高等学校卒業生であり、競合校は近隣の4年制看護系大学、3年制の看護専門学校である。  
 表①の通り、直近の2024年度入学者が振るわないものの、近年80名の定員を概ね充たしてい  
 る。校地も既設の大阪府富田林市から大阪市阿倍野区という好立地に移転することを考慮する  
 と、現状の80名の入学定員でも募集できる状況である。その根拠は、明浄学院高等学校には、  
 普通科の中に「看護メディカルコース」があり、そのほとんどが本学3年課程や4年制大学の  
 看護学科へ進学を希望している。上表の通り、令和7年度に卒業予定の生徒は50名在籍して  
 いるが、3月時点の聞き取りでは24名が新設組織の3年課程への進学を希望している。進学  
 希望先は聞き取りの時期によって多少の変動はあるものの、広く近隣の高等学校を対象とした  
 アンケート調査よりははるかに信頼性は高いと考えている。なお、先の表①に示した第二看護  
 学科(3年制)の入学者数には、明浄学院高等学校の「看護メディカルコース」はまだ開設され  
 ておらず、含まれていない。一方で、近年短期大学に対する人気が一般的に低迷していること、  
4年制看護系大学における学生確保の競争も激しくなっていること等を考慮し、既設組織の80  
名から60名に入学定員数を減員することとした。これは、教員数や移転する校舎の教育環境  
から、短期大学全体の収容定員数を現状から変更しないほうが良いとの判断が働いている。

## ⑤人材需要に関するアンケート調査等

看護師の人材需要の動向については、たとえば①新設組織で養成する人材の全国的、地域  
 的、社会的動向の分析で触れた厚生労働省による看護師等確保基本指針検討部会で示されてい  
 る資料【資料1】に如実に反映されている。この度の看護学科は再三繰り返している通り既設  
 組織と同じ人材養成なので、既設学科における卒業生の卒業時の動向がもっとも直接的に社会  
 的な要請を表すものと思われるので、その結果を以下示す。

表中、第一看護学科が今回届け出る看護学科2年課程で、第二看護学科が今回届け出る看護  
 学科3年課程である。

既設組織における卒業生の看護師としての就職率を、以下に掲げる。

表② 既設学科の卒業者数と就職率

	第一看護学科（2年制）		第二看護学科（3年制）	
	卒業者数	就職率	卒業者数	就職率
2018年度	101	97%	74	97%
2019年度	104	99%	69	91%
2020年度	91	96%	83	90%
2021年度	78	95%	65	96%
2022年度	129	96%	78	93%
平均	100.6	96.6%	73.8	93.4%

参考までに、2022年度の就職先であるが、第一看護学科（2年制）では就職者116名のうち110名が病院で割合が94.8%、放課後デイサービス・障害者グループホーム、介護老人福祉施設が2名となっている。第二看護学科（3年制）では、就職者66名の全員が病院に就職している。すなわち当初の目標である看護師免許を取得して病院に就職することが果たされており、病院における人材需要の高さを示している。

#### （4）新設組織の定員設定の理由

本文中でも再三触れている通り、新設組織は既設組織から名称と入学定員数のみ変更し、それ以外はそのまま移し替えたものであるため、学生募集に係る間接的なアンケート調査等を行っていないことを再度述べておく。

定員設定に関しては過年度の入学者数と、とくに看護学科2年課程においては、連絡進学元である同一法人設置校の明浄学院高等学校の在籍者数と今後の見込み等を検討したうえで行った。3年課程においても明浄学院高等学校の普通科「看護メディカルコース」から一定数の入学が見込め、2026年度には入学定員の半数が同高等学校から見込める情勢である。もちろん、その前提として18歳人口が今後減少する中においても、看護師の社会的需要が小さくなることはなく、とくに大阪府をはじめ大都市圏においてはそれが顕著であるという背景があり、高校短大接続を基軸とする新設組織の定員設定は十分合理性があるものと考えている。

以 上